2022 年 4 月 1 0 日 パームサンデー

インターネットの礼拝映像配信は9時より。11時からは録画を視聴できます。

後 祝 舜	衆 賛	聖書 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	日
感謝祈祷 37	聖歌111(1,4節)	1 5	4月10日 パームサンデー 会衆賛美 御手の中で(1節) 会衆賛美 聖歌399(1,2節) を留め助言を与えよう」アーメン を留め助言を与えよう」アーメン を留め助言を与えよう」アーメン のであなたを教え を発養 といるであなたを教え を発養 といる。 のであなたを教え を発養 といる。 のであなたを教え のであなたを教え

■聖歌399「カルバリ山の十字架」(1, 2節)

- ①カルバリ山の 十字架につきて イェスはとうとき 血潮をながし 救いのみちを ひらきたまえり カルバリの十字架 わがためなり
- ※ああ十字架 ああ十字架 カルバリの十字架 わがためなり
- ②かくも たえなる 愛を知りては 身も たましいも ことごと ささげ ただ あわれみに すがるほかなし カルバリの十字架 わがためなり

■御手の中で

- ①御手の中で すべては変わる賛美に わがゆく道を 導きたまえ あなたの御手の中で
- ■主の祈り 天にましますわれらの父よ。ねがわくは 御名をあがめさせたまえ。御国をきたらせたまえ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの目用の糧を今日もあたえたまえ。われらに罪をおかすものを われらが 赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ。われらを こころみにあわせず 悪より救いいだしたまえ。国と力と栄えとは かぎりなく なんじのものなればなり。アーメン

■交読 イザヤ書53章1~12節

- 1 私たちが聞いたことを、だれが信じたか。 主の御腕はだれに現れたか。
- 2 彼は主の前に、ひこばえのように生え出た。 砂漠の地から出た根のように。 彼には見るべき姿も輝きもなく、 私たちが慕うような見栄えもない。
- 3 彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、 悲しみの人で、病を知っていた。 人が顔を背けるほど蔑まれ、 私たちも彼を尊ばなかった。
- 4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。
- 5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、 私たちの咎のために砕かれたのだ。 彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、 その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。
- 6 私たちはみな、羊のようにさまよい、 それぞれ自分勝手な道に向かって行った。 しかし、主は私たちすべての者の咎を 彼に負わせた。
- 7 彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない。屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。
- 8 虐げとさばきによって、彼は取り去られた。 彼の時代の者で、だれが思ったことか。 彼が私の民の背きのゆえに打たれ、 生ける者の地から絶たれたのだと。
- 9 彼の墓は、悪者どもとともに、 富む者とともに、その死の時に設けられた。 彼は不法を働かず、 その口に欺きはなかったが。
- 10 しかし、彼を砕いて病を負わせることは

主のみこころであった。 彼が自分のいのちを 代償のささげ物とするなら、 末長く子孫を見ることができ、 主のみこころは彼によって成し遂げられる。

- 11 「彼は自分のたましいの 激しい苦しみのあとを見て、満足する。 わたしの正しいしもべは、 その知識によって多くの人を義とし、 彼らの咎を負う。
- 12 それゆえ、 わたしは多くの人を彼に分け与え、 彼は強者たちを戦勝品として分かち取る。 彼が自分のいのちを死に明け渡し、 背いた者たちとともに数えられたからである。 彼は多くの人の罪を負い、 背いた者たちのために、とりなしをする。」
- ■使徒信条 われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤよりうまれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて 生けるものと死にたるものとを さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

■聖書朗読 マタイの福音書21章1~11節

- 1 さて、一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山のふもとのベテパゲ まで来たそのとき、イエスはこう言って、二人の弟子を遣わされた。
- 2 「向こうの村へ行きなさい。そうすればすぐに、ろばがつながれていて、一緒に子ろばがいるのに気がつくでしょう。それをほどいて、わたしのところに連れて来なさい。
- 3 もしだれかが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。 すぐに渡してくれます。」
- 4 このことが起こったのは、預言者を通して語られたことが成就するためであった。

- 5 「娘シオンに言え。『見よ、あなたの王があなたのところに来る。柔和 な方で、ろばに乗って。荷ろばの子である、子ろばに乗って。』」
- 6 そこで弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにし、
- 7 ろばと子ろばを連れて来て、自分たちの上着をその上に掛けた。そこ でイエスはその上に座られた。
- 8 すると非常に多くの群衆が、自分たちの上着を道に敷いた。また、木 の枝を切って道に敷く者たちもいた。
- 9 群衆は、イエスの前を行く者たちも後に続く者たちも、こう言って叫んだ。

「ホサナ、ダビデの子に。

祝福あれ、主の御名によって来られる方に。

ホサナ、いと高き所に。」

- 10 こうしてイエスがエルサレムに入られると、都中が大騒ぎになり、「こ の人はだれなのか」と言った。
- 11 群衆は「この人はガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ」と言っていた。

■聖歌111「われいのちを」(1, 4節)

- ①われ いのちを なれに与え 血に ながみを きよくなして死と よみの手より なれを ときぬいかなる ものもて なれ こたえし
- ④またき救い 愛とゆるし われは買いて ながものとす この よき たまもの 受けし なれは いかなる こたえを われに なすや

■頌栄 聖歌376「父 御子 御霊の」

父 御子 みたまの おおみかみに とこしえかわらず 御菜えあれ 御菜えあれ アーメン